

2026(令和8)年度入学者一般選抜Ⅰ期国語問題

国語問題に関して、問題文として引用した評論・随筆は公開しておりません。著作権者へ公開の許可を伺い、許諾が得られた場合に順次公開します。

出題の意図

短大入学後には、自らの力で講義を聴きとり、テキストや参考文献を自発的に読み込むこと、また、必要な情報を自ら見つけてメモをとり、実習日誌を書き、レポートをまとめることも必要になってきます。そのための基本的な力を持っているかどうかを確かめることが一番の目的です。

この国語の試験では、国語に関する基本的な知識はもちろん、論理的な文章をどの程度読み取れるか、含意の推測がどの程度できるかという読解力と、その理解できた内容をどの程度わかりやすく説明できるのかという文章表現力に重点を置いて問うています。

構成

大設問として2問を出題し、大設問それぞれに2000字前後の評論または随筆を用意し、文章を読んでその後の問いに答えてもらうというパターンをとっています。

設問内容

それぞれの設問としては、主に

1. 漢字の読み、書き、言葉の意味といった文字・言葉レベルの知識を問う設問、
2. 接続詞や副詞の空欄を埋めさせることによって文と文、語と語の関係の知識を問う設問
3. 指示語の指示先の理解を問いながら内容について考える力を問う設問
4. 文章中のキーワードや文脈に沿った説明(その言い換え)を文中から抜き出してもらうことによって全体の構成を読み解く力を問う設問
5. 筆者の主張や考えの理由を文脈にそって説明してもらうことによって、文脈の理解力(読解力)とその言語化の力を問う設問

の5種類を出題しています。

また、記述してもらう問題では、100字以内で説明するものが2問、70字以内で説明するものが1問、50字以内で説明するものが1問あり、文章表現化の力を試しています。

問題文の出典

問題1：時本真吾『あいまいな会話はなぜ成立するのか』（2020年岩波書店刊『岩波科学ライブラリー』）

問題2：難波優輝『物語化批判の哲学 〈わたしの人生〉を遊ばなおすために』（2025年講談社刊『講談社現代新書』）